

令和元年度第4回移動教育委員会 懇談会発言要旨
(島田工業高等学校)

開催日時：令和元年11月14日(木) 13:40～16:10

場所：島田工業高等学校 視聴覚室

懇談会テーマ：コアスクール(学力進展)・工業教育の取組

参加者：島田工業高等学校教員及び生徒、静岡県教育委員ほか

1 学校概要・コアスクール概要説明

島田工業高等学校

- ・昭和38年開校。学科改編を行い、平成31年4月から情報電子科を設置。学び続けるエンジニアの育成を目指している。
- ・女子生徒は全体の1割程度。
- ・近年の進路状況は35%が進学し、65%が就職している。企業からの求人も増加傾向にある。近年、公務員の割合が増えている。
- ・基礎学力の向上を図るため、自発的学習習慣の育成(1日1ページノート学習の導入等)、資格取得のための支援を行っている。
- ・今年度から生徒の多様な進路希望に対応するために、コースごとに分かれるための学科選択を1学年の9月に実施した。あわせて、授業時間を週に2時間増やし、進学を希望する生徒にも対応できるよう数学、英語、理科の時間を確保した。

県教育委員会事務局

- ・平成30年度から令和2年度まで39校をコアスクールとして指定。島田工業高等学校は、学力進展で指定されており、工業高校で唯一指定されている。基礎学力の育成をテーマに取り組んでいる。
- ・指定校は情報交換会を年2回開催し、各校の取組を共有している。

2 授業、実習見学(機械科・電気科・都市工学科)

3 生徒実践発表

- ・諏訪原城の模型製作活動(建築科模型班)
- ・島田ICTコンソーシアム活動、ドローンを活用したプログラミング実演(情報技術科ICTコンソーシアム班)
- ・舞台技術活動、照明・音声機器操作体験、終戦記念ドキュメンタリー映画「模

擬原爆・島田空襲の真実」制作活動（情報技術科放送技術班）

4 意見交換

〔授業、実習について〕

県教育委員

- ・授業で学んだ理論が実習で実践されていることがよく分かった。1日1ページの学習でどのような取組をしたか。

島田工業高等学校生徒

- ・1日1ページの学習は、授業の復習をした。毎日続けることが大切だと感じた。

〔課題研究について〕

県教育委員

- ・課題研究のテーマをどのように設定しているか。

島田工業高等学校

- ・課題研究は、学びの成果を地域に還元することが目的。実際に課題に取り組み、その中で得られるものがあればいい。生徒たちの思いを尊重している。
- ・諏訪原城は、島田市から要請があったが、本来は、生徒が課題を見つけて取り組むべきと考えている。地域からいただいた仕事は、断らずに取り組んでいる。難しい課題であれば、教員が手伝うこともある。
- ・高校生に生きた仕事を体験してほしい。自分でテーマを探し、取材に行つて話を聞いたり、調べたりしてまとめていくことは、課題解決学習そのものである。受け身ではなく、企業や自治体に自分たちができることを示して、場を提供していただくことが大切である。

県教育委員会教育長

- ・課題研究に取り組んだ感想を教えてほしい。

島田工業高等学校生徒

- ・諏訪原城のジオラマは文化祭での展示を目標に取り組んだので、間に合つてほつとした。兵士を塗装するなどの細かな作業が終わった時は達成感を感じた。
- ・映画を見た小さな子どもの感想を聞いて、製作意図が伝わっていることが分

かり、活動の意義を感じた。

- ・トライ&エラーの繰り返しだったが、小学生の素直な反応を見て、良い経験ができたと感じた。
- ・戦争に関する映画を制作することで、平和の大切さを感じるとともに、進路についても考え、人を助ける仕事に就きたいと思うようになった。
- ・裏方としてステージを演出しているが、高校生が演出していると気付かれることはない。自分たちが成長するために活動しているので、これからも成長する場を自分たちに与えてほしい。

県教育委員

- ・課題研究に取り組む際、学校で習ったこと以外も自発的に学んだのではないかと。

島田工業高等学校生徒

- ・学校では、最初のきっかけになる部分を幅広く学んでいる。今回は、使用したプログラム言語が学校で習ったこととは異なっていたため、自分で学んだことが多かった。
- ・授業と自発的に学んだことの比率は半々程度。課題研究は学校で習わないことを学ぶ場だと感じている。
- ・課題研究では、1、2年で学んだことを応用しているため、7割くらいは授業で学んだことを活用している。
- ・学校では学び方を学んでいると思っている。学校の良いところは、仲間とコミュニケーションし、自分とは異なる見方を学ぶことができるところ。

県教育委員会事務局

- ・地域と連携し、地域に貢献する研究になっている。
- ・課題研究のクオリティーが高く、発表も堂々と自分の言葉で語る事ができていた。
- ・課題研究を通じて、身に付いたことを教えてほしい。

島田工業高等学校生徒

- ・人前で話す機会が多く、コミュニケーション能力の向上につながった。
- ・仕事を請け負うことで、責任感が出てきた。また、立場を考えて行動できるようになった。
- ・気遣いができるようになった。

- ・小学生対象の講座を企画・運営することで、マネジメント能力が身に付いた。
- ・ステージの演出が楽しく、将来の仕事にしたいと思い就職活動をしたところ、ステージ演出の仕事ができることになった。

県教育委員会教育長

- ・実習の様子や課題研究の成果から、生徒たちが自分自身を成長させようと授業や研究に取り組み、過去の出来事も学びつつ、未来にも目を向けて、学んでいることがよく理解できた。子供たちの可能性を広げ、地域に貢献する取組を今後も継続してほしい。